

在外教育施設における現地理解教育

前香港日本人学校小学部香港校 教諭

茨城県守谷市立松ヶ丘小学校 教諭 笠井博貴

キーワード：現地理解，社会科，校外学習

1. はじめに

在外教育施設における現地理解教育は、学校の中心となる教育活動であると考えられる。香港日本人学校小学部香港校においても、「異文化や自国の理解を深める教育活動を企画運営し、児童の国際人として必要な資質を育てる。」を国際理解教育のねらいの一つとして、現地校との交流、英会話教育、社会科での学習や校外学習を積極的に進めている。

社会科においては、日本の教科書や小学校社会科副読本「香港」を使用し、学習を進めているが、社会科のように地域に根ざした教材を扱うことの多い教科では、日本での地域学習以上に教材開発などの面で工夫が必要となってくる。

子どもたちの学習意欲を喚起するためや主体的な学びを保障するために、在外教育施設における社会科の地域学習において、地域素材の教材化はとても重要なことである。そのためには、「地域から、地域の中で、地域とともに」学ぶという、地域密着型の学習の進め方を研究していく必要がある。

このような点からも、私自身が香港の社会的事象を学習の教材（内容・対象）としてとらえ、日頃から香港に対する理解や認識を深め、香港で生活している人たちの思いや願いを感じることができるよう、積極的に現地理解を進めるとともに地域素材の教材化を図ってきた。

本稿では、香港日本人学校小学部香港校で実践されている地域素材を教材化した社会科学習の取り組みについて紹介することとする。

2. 香港日本人学校小学部香港校における地域素材の教材化

香港は中国広東省の南東の沿海地帯に位置する約1100平方キロにわたって広がる地域である。九龍、香港島、新界の3つに分かれている。香港島はビクトリアハーバーを隔てて九龍の真南に位置し、新界は九龍の北方、中国本土と境を接する地域で、面積では香港の大部分を占めるとともに、260以上の島々を含んでいる。香港全土の70%以上が農地で、うち40%が国立公園として保護されている。つまり、国全体における国立公園の割合は、世界トップクラスといえる香港なのである。

社会科の目標や内容に合わせ身近な人々から学んだり、交流したり、施設を見学したりする活動が各学年の学習内容に合わせ計画が立てられている。また、学習内容の工夫・改善に努め、学習指導の充実を図ることを通して、国際理解教育や現地理解教育など香港ならではの教育活動にも重点が置かれ実践が行われている。

学年	社会科における地域素材の教材化
3年	香港島探検・トラム乗車体験・スーパーマーケット見学（ジャスコ）・工場見学（ヤクルト）
4年	社会科見学（ゴミ処理場）・航空教室・ドラゴンボート体験・警察署見学・消防署見学
5年	コンテナヤード見学・工場見学（広州トヨタ自動車）
6年	社会科見学（歴史博物館）・日本人墓地清掃

3. 第3学年の社会科指導の実際

(1) 『わたしたちのまち みんなのまち』における単元計画（24時間扱い）

次	時間	主 な 学 習 活 動	
1 学校のまわりのようす	1	わたしたちの住む香港島について、その土地の様子と人々の暮らしについて関心を持ち、進んで学習しようとする意欲をもつ。	
	2	学校の屋上から見た眺めや土地の広がり、建物の様子について観察する。	
	3	自分の目で見えた屋上からの眺めを平面化させ、分かりやすく表す。	
	4～5	ジャーディン山から学校の周りや土地の広がり、土地の使われ方について観察する。【校外学習】	
	6	ジャーディン山からの観察記録から土地の様子や土地の使われ方について考察し、その特徴をまとめる。	
	7	ハッピーバレーの町に探検に行くための計画を立てる。	
	8～9	探検の観点にそってハッピーバレーの町を見学し、町の様子や土地の使われ方について知る。【校外学習】	
	10～11	ハッピーバレーの町を探検して分かったことを、表し方を工夫しながら絵地図にまとめる。	
	12～13	基本的な地図記号や地図の約束事を知り、ハッピーバレーの町の様子を地図記号を使って、絵地図にまとめる。	
	2 香港島のようす	1	自分の家（マンション）の周りの様子について調べ、絵地図にまとめる。
		2～3	自分の住む地域以外の様々な地域の様子を知るとともに、いろいろな地域の特徴について関心をもつ。
		4	香港島の主だった地名と位置を知り、それぞれの地域の特徴を知る。
5～6		トラムに乗り、そこから見える街並の様子を観察し、地域の特徴をとらえる。【校外学習】	
7		トラムでの探検から、香港島北部の街の様子をまとめ、地域の特徴について知る。	
8～10		ピークトレイルを歩き、北部のビルが立ち並ぶ様子や南部の緑あふれる様子を観察し、北部と南部の違いを知る。【校外学習】	
11		ピークトレイル探検から、香港島の北部と南部の様子や土地の使われ方の違いや特徴についてまとめる。	

(2) 学習の実際（第1次 第4～6時）

・第4～5時のねらい


ジャーディン山から学校の周りや土地の広がり、土地の使われ方について観察することができる。

学校の裏にあるジャーディン山は、身近な自然を観察できる場所として、生活科や各学年の理科の学習などで利用されている。3学年ではジャーディン山の頂上に登り、方位磁針を使って東西南北を調べる。北の方角に見える香港の街のビル群や南の方角に見える山並みなどを鳥瞰し、学校周辺の土地の様子などについて観察を行う。

・第6時のねらい

ジャーディン山からの観察記録から土地の様子や土地の使われ方について考察し、その特徴をまとめることができる。

活 動 内 容	支 援 ・ 留 意 点
1. ジャーディン山から見えた土地の様子と土地の使われ方について話し合う。 <input type="checkbox"/> 北…低く、比較的平らな土地 ・ コーズウェイベイ、高いビル、九龍サイド、ビクトリア湾 <input type="checkbox"/> 東…高い山 ・ 多くの木々、高いビルが少ない	・ はっきりと方位（四方位）を指す主だったものを確認していく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 目立つ建物 ● 地域の名前 ● 土地の様子 ● 土地の使われ方の様子や特徴 </div>

<p>□南…山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山と山の間を抜けていく道，住宅は少ない <p>□西…遠くまで連なっている山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハッピーバレー，山に沿って通る道，港安病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発言を項目別に整理していく。 	
<p>学校のまわりの土地は，どのように使われているのかをまとめよう。</p>		<p>【町では人との触れ合いも】</p>
<p>2. 学校の周りの土地の様子と土地の使われ方についての関係を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校下（ハッピーバレー）の様子が見えなかったのによく分からない。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の多い所（北・西）の様子でジャーディン山からは分かりにくい点が多いことから，次時以降の「ハッピーバレー探検！」につなげる。 	

4. 各学年の指導の実際

(1) 第3学年の実際

①香港島の街の様子を調べよう～トラム乗車体験～

1904年に開通以来，香港島北部の主要地区を結ぶ交通機関であるトラムに乗って，香港島の北部の街並みを見学する学習である。ハッピーバレーの町の様子とは違い，乾物屋が多い場所，たくさんの銀行が建ち並ぶ場所など，地域によって全く違う様子の見られる香港の街をトラムから見学する。

②スーパーマーケット見学（ジャスコ）

ジャスコさんにご協力を頂き，店で働く人の様子や店内の様子を見たり，聞いたりする学習を行っている。バックヤードに入り，仕入れや商品をコンピュータで管理している所，新鮮な肉や魚，野菜を保存している大型冷蔵庫などを見学し，子どもたちにとって驚きや発見が多い学習となっている。

③工場見学（ヤクルト）

日本で親しまれている「ヤクルト」の工場に行き，ヤクルトがどのようにして作られているのか，工場働く人たちの様子や工夫などについて見学を行っている。香港の工場では，1日に60～70万本ものヤクルトが作られ，その容器の成形からパックまでの行程が，一つの工場内ですべて行われ，香港全体に運ばれている。

(2) 第4学年の実際

①社会科見学（ゴミ処理場）

中国本土と接している沙田のごみ処理施設に見学に行き，学習を進めている。香港の処理施設では，ごみを燃やさず，圧縮して全体量を減らして船で新界地区の埋め立て地へ運んでいる。日本のごみ処理の方法とは違う香港の処理施設を見学することで，子どもたちは文化の違いを感じる。

②社会科見学（歴史博物館）

歴史博物館は昔の民家を再現したり，本物の農機具を展示したりしてあり内容も充実している。農機具などを初めて見る子どもたちも多く，大変興味深く見学することができる。農機具は日本にもかつてあったようなものであるが，1年中船の上で生活する水上人の道具や知恵には学ぶべきことが多くある。また，昔から伝わる祭りの紹介では，その祭りに込められた人々の思いや願いを子どもたちは知ることができる。

③航空教室

パイロットさんやキャビンアテンダントさん，機体整備士さんが来校し，日頃取り組んでいる仕事の話や子どもたちの素朴な疑問などを丁寧に説明してもらっている。航空教室に向けてANAの方々のご厚意もあり，子どもたちは飛行機に携わる方々の努力や苦勞を学ぶ機会となっている。

④ドラゴンボート体験

ドラゴンボートとは香港の伝統あるボート競技で、手漕ぎボート競技としては古い歴史がある。ドラゴンボートの歴史を学ぶと共に、香港ならではの競技を現地理解の一つとして取り入れた体験活動を行っている。また、体験を行う場所は海上に造成された貯水池で、昔から水不足の問題に悩まされてきた香港の水事情についても学ぶ機会となっている。

(3) 第5学年の実践

①コンテナヤード見学

コンテナターミナルは、世界中から届く荷物の受け渡しをすることで、香港は世界第3位のコンテナの取扱い量を誇っている。見学では、実際にコントロールタワーに上がったり、バスでコンテナヤードを回ったりする中で、子どもたちはコンテナ船の大きさに驚くなど、香港の貿易について学ぶ機会となっている。



【さすが世界第3位の香港】

②工場見学（トヨタ自動車）

広州宿泊学習（二泊三日）の行程の中でトヨタ自動車工場での見学を行っている。香港でも多く見られるトヨタの自動車が、どのように作られるのかはとても興味深い。そして、世界の自動車の中でも高い技術力をもつトヨタの車づくりへのこだわりと工夫を肌で感じるなど、子どもたちにとっては、自動車づくりへの興味が深まる見学となっている。

(4) 第6学年の実践

①社会科見学（歴史博物館）

香港で生活する子どもたちにとっては、香港の歴史や文化を学ぶことはとても大切なことである。しかし、香港の歴史や文化に関しては日本の教科書や資料集からでは学ぶことができない。そうした中で、子どもたちが香港のことをより深く理解するためにも博物館での学習がもつ意味はとても大きい。「香港の歴史に関するものが見学できてとても勉強になった。」「日本が香港を占領していたことを初めて知って、驚いた。」「香港はこれからどのように発展していくのだろうか。」といった感想が上がるように、子どもたちは博物館の見学を通して、香港の歴史や文化を学び、さらに、それまで以上に香港について知りたいという知的好奇心が刺激されるなど、子どもたちにとって大変印象深い学習となっている。

②日本人墓地清掃

香港島のハッピーバレーにある公共墓地の一角に日本人墓地がある。この墓地は一時荒れ果て、墓石が倒れたり、朽ち果てたりして、どこに日本人墓地があるのかわからないほどであったが、それを香港政府が整備し、今日のような形に修復された。香港で生活されていた日本人の方々についての理解を深めると共に、清掃活動を通してボランティアの精神を養うことを目的として行う学習となっている。

5. おわりに

在外教育施設における現地理解教育は、学校の中心となる教育活動である。香港に赴任して、日本にいたとき以上に「地域から、地域の中で、地域とともに」学ぶことの大切さを感じるが多かった。多くの観光客が訪れる香港であるが、観光では行かないようなところに実は現地理解につながるようなすばらしい教材があることが分かった。

子どもたちにとって、現地理解教育で学んだことは日本では経験できない大きな財産になるものといえる。それと同じように、香港の地で広い視野をもち、日本とは違う価値観、文化、多様なものの見方、考え方を学ぶことができたことは私にとってかけがえのない財産となった。帰国してからの実践では、さらに試行錯誤を重ね、香港で学んだことを活かして子どもたちの学習意欲の向上につながるような授業を展開できればと思う。